

インカ帝国



* 和田敏英収集史料494(12 の6) ④「CUSCO CAPITAL HISTORICA DEL PERU」

解説

インカ帝国は、現在のペルー南部のクスコを中心に、15世紀から16世紀にかけて繁栄したインカ族の国です。最盛期には、人口約1,000万人を擁し、その版図は、北は現在のエクアドルから南はチリにまで及ぶ大帝国となりました（面積は日本の約3倍）。太陽を崇拝し、太陽の化身とされる皇帝（インカと呼ばれた）を頂点とする中央集権的な専制君主政治が行われました。

帝国の基盤は農業で、トウモロコシやジャガイモを栽培しました。また、文字を持たずに、縄の結び方（キープ＝結縄）で情報を伝えました。巨大な石造建築・土木灌漑・織物などに象徴される高度な文明は、マヤ、アステカの両帝国とともに古代アメリカ文明を代表するものでした。しかし、内紛に乗じたスペイン人ピサロらによって1533年に征服されました。クスコやマチュピチュなどに遺跡が残っています。

写真は、かつてのインカ帝国の首都クスコへの観光用の入場証です。入場料は、1999（平成11）年9月当時で10ドル（約1,060円）でした。